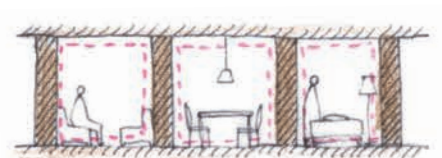


壁のないイエ

いまの住まいは分厚い壁で守られていて、みんながからに閉じこもってくらしているように思います。確かにそこは安全な場所かもしれませんが、心から安らいでいるといえるのでしょうか。「一人だけど、独りではない」と思える住まいこそが、いまの私たちに必要なくらし方であると私は考えます。これは、そんな新しいくらしの物語です。



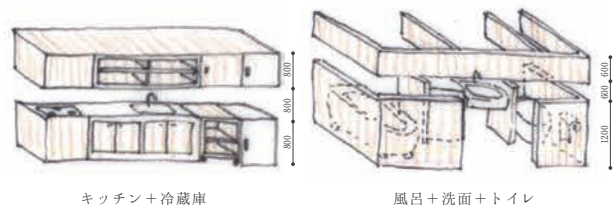
□ゆるやかに気配を感じるくらし



現在のマンションの多くは、個室どうしが壁によって明確に区切られた、均質な間取りとなっています。同じ部屋で暮らしている家族にも関わらず、丸一日お互いに顔を合わせない、なんてことが、実はあちこちで起こっているのかもしれません。そこで、お互いのプライバシーを守りながらも、くらしの気配を感じられるような区切り方を考えます。

□ゆるやかに区切るしくみ

■固定ユニット



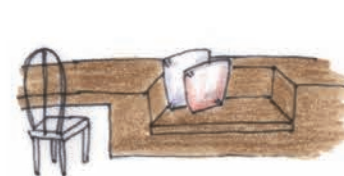
■可動ユニット棚



各住戸には固定ユニットが備え付けられていますが、部屋を区切る壁は一枚もありません。住人たちは可動ユニットである棚を天井からつるしたり、床に置いたりしながら、思い思いにそれぞれの居場所をつくりあげていきます。

□別のことをしていても、つながっている

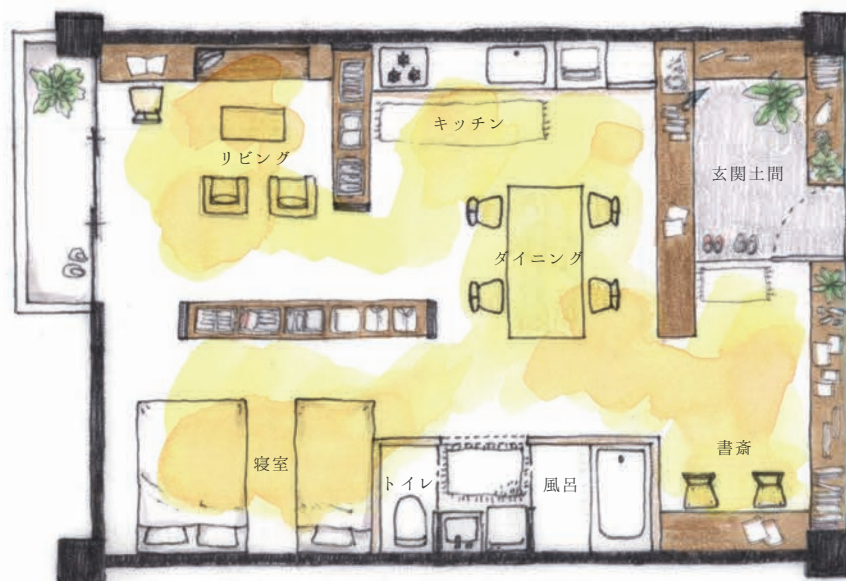
この部屋には、本好きの夫婦2人と子ども1人がくらしています。キッチンで晩ご飯をつくっているお母さんからは、共同廊下沿いの棚に本を並べているお父さんの姿も、ソファ横の机で宿題をしている子どもの姿も見えませんが、しかし、お互いに別のことをしていても、音や空気、においが伝わることで、それぞれの生活の気配を共有しながらくらしているのです。



同じ高さでつくられたソファと机

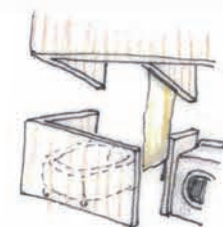


ちょっとした作業スペースにもなる



縮尺：1/100

見えなくても気配を感じられる



視線が気になるときにはロールスクリーンをつかう

物の量によって外からの見え方を調整できる

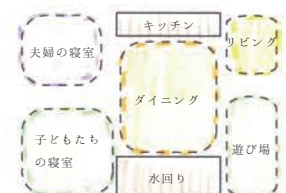


□部屋の外にも、つながっていく

くらしかたの違いによって、棚の置かれかたや使われかたもさまざまです。また、子どもたちが大きくなったり、仕事をやめて念願のカフェを開いたりといったライフスタイルの変化も、棚を移動させることでうまく受け止めることができます。

そして、みんなのくらしの気配は部屋の外へとにじみ出していき、マンション全体で互いの生活をゆるやかに共有するくらしが始まります。それは、壁に守られていた生活よりも、ずっと安心できるくらしかたなのではないでしょうか。

■夫婦2人+遊び盛りの子ども2人

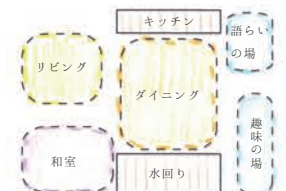


玄関土間は子どもたちの遊び場になっていて、廊下沿いの棚には絵本やおもちゃが並んでいる



キッチンから子どもたちが遊ぶ様子が分かる

■写真とサイクリングが趣味の老夫婦2人



共同廊下沿いには趣味の写真と自転車が飾られていて、ちょっとしたギャラリーになっている



棚ごとにお互いの気配を感じる

■自宅でカフェを営む夫婦2人



廊下側がカフェ席となっていてマンションの住人たちがひとときを過ぎにやってくる



共同廊下までにぎわいがあふれだす